

テーマとしている。セクシヨンごとに二名の発表者がそれぞれ二五分の発表を英語または中國語でおこなった。

発表の後、内容のレビューが十分間、そして二十分の自由討論となる。レビューは各大學で學生指導にあたっておられる先生方が擔當された。発表題目と発表者は以下の通りである(なお、コメント擔當者の順番に若干の變更があつたが、ここではプログラムに従い記す)。

八月二〇日

開會の辭

王博・汪桂平・強昱・劉焱

第一組

・劉焱(ハーバード大學博士・ニューヨーク州立大學アラウソ校准教授) Dying to Live: Medicine and Alchemy of Tao Hongjing

・裘梧(北京中醫藥大學講師) 孫思邈「十三鬼穴」所見的道教針灸思想

レビュー…汪桂平(中國社會科學院)

第二組

・二ノ宮聰(關西大學研究員) 北京的碧霞元君信仰―以妙峯山廟會爲中心―

・程樂松(北京大學哲學系副教授) 元氣、天心與太平―『太平經』中所見的「心」及其思想意義
レビュー…陳霞(中國社會科學院)

第三組

・Larson Di Fiori(ブラウン大學博士課程) The Development of Laozi in Zhuangzi

・易宏(北京大學哲學博士、北京大學歷史文化資源研究所、北京大學過程文化與家長教育研究所) 「道」脈「真」源 略探
レビュー…強昱(北京師範大學) / 章偉文(北京師範大

學)

八月二一日

第四組

・巫能昌(フランス高等教育実践學院(E.P.H.E.)宗教學部博
士) 禁籙:一種法師傳統之實踐

・郭頌知(中央民族大学大學博士課程・中國道教學院教師) 五

顯信仰源流略説

レビュー・尹志華(中國道教協會)

第五組

・謝波(北京大學博士、ペンシルバニア大學東アジア學部
博士課程) A Crowded Realm: An Analysis of the

Construction of the World of Internal Immortals in

LaozhZhongjing

・魏孟飛(中國社會科學院哲學系博士課程) 論武術修身

レビュー・張廣保(中國社會科學院)

第六組

・田禾(北京大學哲學與宗教學系博士課程) 錯綜文實:

早期靈寶經中的「十戒」

・周努魯(北京大學哲學與宗教學系博士課程) 『政和五禮

新儀・吉禮』中的「大祀」變革與徽宗崇道

レビュー・劉焱

総合討論

劉焱氏は、陶宏景の練丹法や薬に關する記述の検討を
通じて、六朝から唐代にかけての中國の丹藥と宗教につ
いて考察した。中でも丹藥や宗教における毒の取り扱
いについて検討することで、陶宏景の丹藥の効用に關する
認識や毒物は有害ではあるが用い方によっては有用であ
ると考えていたことなどについて述べた。

裘梧氏は、針灸で用いられる「十三鬼穴」について考
察をおこなった。十三鬼穴については、孫思邈が記録、
整理しており、惡鬼にとりつかれ引き起こされる精神疾
患を治療するツボとされる。これについて中國醫學と道
教の二つの觀點から検討することで、南北朝から唐代に
おいて道教と中國醫學が密接な關係にあることを述べた。

二ノ宮は、清末から民國時期の北京を代表する信仰であつた碧霞元君について、妙峯山廟會を例に、碧霞元君信仰について考察をおこなつた。妙峯山廟會については願頤剛による詳細な調査が實施されている。この調査資料を手掛かりに當時の民衆の信仰の様子について検討した。

程樂松氏は、『太平經』にみられる元氣、天心、太平の三つの概念を手掛かりに、漢代の思想的背景下にある『太平經』の特徴および漢代思想の特徴について考察した。「心」に關する概念は、『太平經』の元氣觀から發展した宇宙觀や身體觀と結びつけられる。さらに、これが展開され人神觀や政治思想へとつながる。ここから、心の概念と『太平經』を通じて漢代思想における『太平經』の思想内容について検討した。

Larson Di Fiori氏は、『莊子』や『禮記』『曾子問』に見られる老子についての記述部分の検討をすることで、老子の故事や人物像の形成過程について考察をおこなつた。特に、老子が思想家として重要視され、道を具體化

した人物として描かれていく過程を検討した。

易宏氏は、道家道教の中心的概念である「道」と「眞」について文字學的視點から検討をおこなつた。

「道」は子宮の中で生育している状態を表し、眞はお腹の中の胎兒の意味である。この二文字はどちらも胎兒を意味し、胎兒の出生は道理や必然の道という意味に展開する。よつて道と眞について考察することは、自ずから道家道教の形成や發展を検討することになる、とした。

巫能昌氏は、『後天藏禁科』および『藏禁科』をもとに禁罐科儀について検討をおこなつた。禁罐科儀とは、亡くなった子供魂を陶器製の罐に文字通り閉じ込めることである。これにより魂が悪鬼に襲われることを防ぐ。氏は、禁罐科儀について宋代以降の變遷、さらに現在の科儀の状況について考察をおこなつた。

郭碩知氏は、五顯神について、まず信仰の起源について檢證し、その後、佛教や道教に取り入れられていく過程について考察した。そして元明代に道教に取り入れられて以降、道教の中での變遷について検討した。

謝波氏は、『雲及七籤』に見られる『老子中經』を手掛かりに、存思や内丹について検討をおこなった。氏は『老子中經』に述べられる人體と氣の關係、身體と修練について詳細に考察した。

魏孟飛氏は、中國武術で實踐される修身について検討した。氏はまず、經典に見られる修身の意味について検討をおこなった。次に傳統文化における修身の意義について考察し、最後に中國武術における修身について検討をおこなった。

田禾氏は、初期靈寶經を詳細に読み解くと、その編纂過程や靈寶經の發展過程という細かな部分を解讀することが可能であるとした。そして、十戒の經文、戒の要點、戒と儀式という三方面から十戒を分析することで、初期靈寶經について考察をおこなった。

周努魯氏は、『政和五禮新儀』「吉禮」中の「大祀」と『太常因革禮』「吉禮」に記載される「大祀」について検討することで、徽宗朝以前と以後の大祀の違いについて考察した。そして大祀の成立過程について検討すること

で、道教や五行、緯書觀念思想との關係を整理した。最後に、徽宗が郊祀する際にあらわれた「祥異」事件と道教の關係を検討した。

以上が各報告の概略である。レビューを擔當した先生方は、發表内容に對する意見というよりは、主にその研究の價値や今後の研究の方向性を示すなどアドバイスが中心であるように思われた。また会場には北京大學の先生を中心に多くの中國の道教研究者の先生が來場されており、こうした先生方からも發表者に對して多くの意見が出された。

今回の會議は、若手道教研究者を中心としたものであり、こうした趣旨の會議は他ではほぼ見られない。各國の研究者と直接交流することは、善段、論文などで知り得る以上に多くの情報を共有する機會となった。そのため各國の若手研究者の情報交換の場としても非常に貴重な機會であると思われる。

第一屆國際道教及中國宗教研究青年學者論壇について

註

(1) 太和基金の詳細については以下のサイトを参照された
い。

<http://www.taihoundation.org/cn/index.html>